

第12回 神戸便教会 活動報告

2018年8月25日（土）、第12回神戸便教会を吉田中学校で行いました。

今回は私だけの活動となりました。男子職員トイレを掃除しました。以前から臭いが気になっていたのですが、やはり厳しい汚れでした。

複数で取り組むときと同様、時間を決めて始めました。また、どこで終わってもいいようにあまり手広くせずに一つずつ掃除していきましたが、結局2つしかできませんでした。

最初に手すりの付いた障害者用の小便器に向かいました。使用頻度が少ないので、便器は比較的きれいでしたが、上の金属部分の白い汚れがこびりついていました。

そして今日はここを掃除することが、私の課題でした。そして、ここを掃除することがあらかじめ決められていたと思いました。

金属部分に付着した白い汚れを何としても落とすたくて、ナイロンたわしと使い古しのサンドメッシュを丸めて磨きました。その結果、金属部分はきれいになりましたが、ナイロンたわしもサンドメッシュもボロボロになって穴まで開いてしまいました。

普段「物を大切に、そのものの命を活かして」と言っているにも関わらず、夢中になるとすっかり忘れてしまうということは、その教えが自分のものになっていないということです。

机上だけでもものを考えて、体を使わないことを相談役は戒めておられます。私も仕事に関しては、具体的に体を使うことを意識しています。しかし、体を使うだけではなく、頭を使いながら体を使わなければ意味がありません。物事に対して行動しながら即応できる力が必要だということです。

教育現場では、何かが起こったときに、瞬時の判断力が求められます。命に関わることが多いからです。そして、その判断と同時に、この先起こるであろう事態を予測し、チームで対応できるようにすることが重要です。そうでないと自分の判断力のミスで、子どもも、先生も、保護者も厳しい状態になってしまうからです。また、自分もボロボロになってしまい、周りの人に迷惑をかけてしまうこととなります。これから先の不透明で変化の激しい時代を生きるためには、人だけでなくモノからも出来事からも、全てのことから、学べるような感性が必要だと感じました。

今日の掃除から、気づきをいただきました。ありがとうございました。

次回は、9月29日（土）8:30～、吉田中学校の予定です。